

ビジネス・キャリア検定試験過去問題集
生産管理 3 級(初版 1 刷) 訂正表

以下の問題の解説文を訂正いたします。

【問題 16】(掲載 : 32 頁)

ウ. 原価企画は、製品の企画・開発段階において、広く関係部門が参画して行う。

● 113 頁

問題 16「ウ」の解説

〈訂正前〉

ウ. 適切。日本においては、製造段階における能率向上による原価低減として、ジャストインタイム生産や QC サークルによる改善活動が行われてきた。

〈訂正後〉

ウ. 適切。選択肢イの解説のとおり。

【問題 31】(掲載 : 44 頁)

エ. 製品在庫が多すぎると、保管費用の増大・在庫の陳腐化などを引き起こす可能性がある。

● 127 頁

〈訂正前〉

エ. 適切。生産停止による生産遅延が発生した時のことを考えて、余裕ある納期を設定することは、「時間による緩衝」の例である。

〈訂正後〉

エ. 適切。適正な製品在庫は必要であるが、多すぎると長期間の在庫を持つことになり、保管費用が増大し、売れ残りになると死蔵在庫につながることもある。

【問題 40】（掲載：50 頁）

イ. 部品構成表は、必要とする資材の必要量を算出する時の基準資料である。

●133 頁

〈訂正前〉

イ. 適切。記述にもあるように、複雑な製品の場合、部品点数も多く、共通部品やユニット部品もあり、かつ、納期対応の面で在庫するケースが一般的である。よって、ストラクチャー型が適する。

〈訂正後〉

イ. 適切。部品構成表には、親子関係の連鎖からこれを木構造で表現したストラクチャー型と表形式で示したサマリー型がある。部品構成が複雑な製品の場合、部品点数も多く、共通部品やユニット部品もあり、かつ、納期対応の面で在庫するケースが一般的である。この場合には、ストラクチャー型が適する。選択肢エの解説も参照。